



# いのちつなぐ

いのちにこだわり、地域と歩んだ 60年



公益社団法人 信和会



# 創立60周年にあたって



公益社団法人信和会  
理事長 小林 充

## 創立60周年にあたって



60年にわたる法人の歴史の中からの教訓として、①地域の要求から出発し、ことあるごとに立ち返る ②最も困難な人々によりそう ③平和と社会保障充実の旗を高く掲げ続ける ④経営を守る意識・観点を握って離さない ⑤人と組織の育成に労苦を惜しまない、の5点を、ぶれることなく受け継いでいきたいと思います。

発足当初の職員や地域の人が60年後の私たちを見てどんな評価をしていただけるのかは想像の範囲を超えるし、ましてや私に60年後を展望するのも無理なことです。それでせいぜい10年後の信和会へのミッションとして、①地域包括ケア時代にあって、「困ったときは信和会」「選べるものなら信和会」と頼られ評価される事業ネッ

トワークをさらに強化している ②法人内外が対話にあふれ、新しいアイデア創発と真摯な振り返りが組織文化になっている ③まじめで柔軟で豊かな発想と実行力を持ちながらも理念においてぶれない人材が次々育っている ④安全性や医療・介護サービスの質向上と効率化・経営改善が一体のものとしてバランスよく発展しているの4点をイメージとしてあげたいと思います。

先日、とある古い開業医の先生から、「信和会」の名は、創始者安井信雄先生に由来すると聞きました。その歴史的な意味合いをかみしめつつも、「地域を守る輪(和)」「戦争をしない輪(平和)」二つの和を信じるという意味を、魂を受け継ぐものとしてこの名前に入れてゆきたいと今感じています。



京都民医連第二中央病院  
院長 磯野 理

## 信和会・京都民医連第二中央病院創立60周年に寄せて



安井信雄初代院長が安井病院を建設して60年の年月が経過いたしました。第二中央病院と名前は変わっても、地域の方々の命を守り、いつでも、どこでも、だれでもが安心して必要な医療・介護を受けられる社会を目指すという、安井病院の伝統は受け継がれてきました。

今年は戦後70周年の節目です。このような年に、これまでの70年間では考えられなかったような右翼政権が歴史認識を否定し、憲法を無視して、再び戦争ができる国にしようと暴走を続けています。私たちは70年前の原点に戻って、満州事変に始まる15年戦争の歴史を振り返り、この国のあり方を考え、平和憲法を守り抜いていかなければなりません。

さて、目を我が京都民医連第二中央病院へ向けると、今年はいよいよ南館リニューアル建設が始まる年です。建設に先駆けて、2014年12月、病院医療機能評価(病院で行われている医

療全般の内容が適切なものかどうか、を審査する仕組み)を受審致しました。その結果、全体的に好意的な評価でしたが、特にリハビリテーションと困難を抱える方への医療相談員(ケースワーカー)の対応に関して非常に高い評価を頂き、これまで我々の行ってきた医療が間違っていないことが認められ、職員の自信につながりました。

リニューアルでは、これからの第二中央病院の目指すべき医療、特に2025年以降の超高齢化多死社会への対応ができることを医療構想の中心に据え建設計画を進めています。その主な点は以下の通りです。1) 差額料料が不要な急性期病床を守る、2) 高齢多死社会へ向け緩和ケア病棟を導入する、3) あすかい診療所と病院外来を統合再編して在宅医療、かかりつけ医機能を充実させる、4) 人権を守る地域包括ケアの実践により予防・まちづくりに取り組みます。





友の会 左京

左京健康友の会  
会長 若井 修



信和会60周年、おめでとうございます。まだ、鞠小路通りに前身の安井病院があった頃のことを思い出します。それから現在の南館に安井病院が誕生しました。初代院長の安井信雄先生は皆に推されて市議会議員に立候補し、見事当選を果たされました。第二中央病院ができたことで、誰でも病院にかかりやすくなり、お金のない人もある人も病院に来る機会が増えてきました。お医者さん、看護師さん、事務の人、皆さん大変忙しい日々を過ごされていました。これからも地域人のために皆が利用しやすい病院をつくるため、職員の皆さんと友の会員・患者の皆さんと協力をして南館リニューアルに取り組んでください。そして、これからも地域医療の中核病院としてがんばってもらい、友の会も病院と共にがんばっていきますのでよろしく願います。



友の会 山科

山科健康友の会  
会長 野原 孝喜



私と民医連の関わりは、1950年に疎開の岐阜から京都に帰り、出来たばかりの仁和診療所の前を毎日通学していました。1955年、まだ物のない時代で信和会・安井病院が開設されました。前身の安井病院は戦前から安井信雄先生が「お金は払えるときに払えばいい」「いのちは平等」と言って住民から信頼され、病院開設で民医連に参加されました。安井先生は1971年まで12年間京都民医連の会長として基盤を作られ、京都の民医連の中核として安井病院(現在の第二中央病院)が果たしてきた役割は大きく、支えた職員・友の会は素晴らしい。私もこの素晴らしい事業に大宅診療所の建設準備から関わり、健診活動で2回、がんの早期発見で治癒し、元気に友の会活動をしています。



友の会 洛北

洛北診療所友の会  
会長 黒澤 良一



創立60周年記念おめでとうございます。この60年は民医連運動・京都の民主運動、そして私自身の「よたよた」の歩みであったと考え深く思い出しています。百万遍の下宿時代や待鳳診、大学紛争時の傷害などその都度お世話になりました。大阪では耳原病院や上二病院などでもお世話になり、リタイア後は洛北診療所にお世話になっています。私もこの夏で80歳になり、地域に頼りになる医療機関があることは本当にこころ強く安心なのです。長寿が喜ばれる社会は人間性の復権です。共に喜び合い共に向上し合いましょう。



友の会 東山

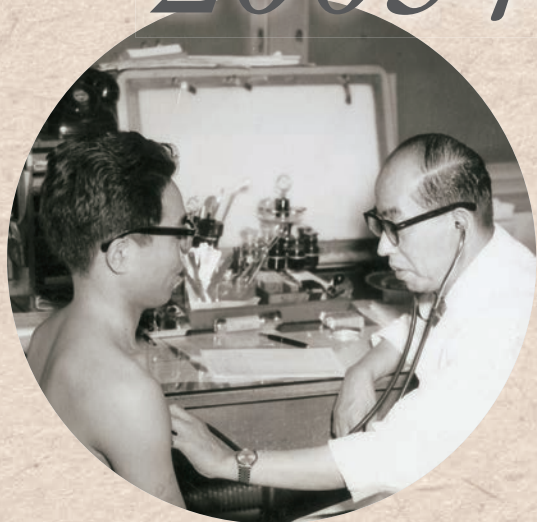
東山健康友の会  
会長 藤本 貞子



信和会60周年おめでとうございます。更なる発展を心からお祈り致します。東山診療所は1952年、陶磁器労働者や地域の人々によって創設されました。じん肺の検診・治療、高齢者のリハビリなど他に先駆けて地域医療に取り組んできました。1968年に信和会に加盟し、信和会とともに発展し、今では診療所と、どんぐりなど訪問看護、介護ステーションなど4つの事業所、健康友の会、りぼんなどが東山の地域に根をはって活躍しています。私の個人的なことで恐縮ですが、議員時代、たびたび夜中に胃の激痛がおこり、安井病院に駆け込み、点滴をしてもらい、朝になると痛みも取れて、議員の仕事が続けることができました。あの時お世話になった医師・看護師、職員さんたちとともに信和会の発展のために活動できることはこの上ない喜びです。



# 原点～ 2005年



1937年の左京区田中地域



医療活動の様子



医療座談会

1960年代の外來の様子



1950年代の安井病院

## 前史—「安井医院」時代

病院初代院長の安井信雄先生は吉田下大路町で約2年間の夜間開業ののち、1937年10月、左京区田中野神町に今日の病院の土台となる安井医院を開設。当時、保険患者は全患者の1～2割と貧困層の多かったこの地域で「お金はある時に払えばええ」と命は平等を信条に苦勞をいとわない地域の医師として第1歩を踏み出しました。

今でも第二中央病院を「安井さん」と呼ばれる地域の方が多いことから地域になくなくてはならない存在だったことが窺われます。

## この地域に私たちの診療所を

東山診療所は、1952年7月、東山区大和大路に陶磁器組合、東山企業組合、生活を守る会などの運動により、開設しました。(1968年2月より信和会に加入)

川端診療所は、1954年5月に青年たちが中心になって開設の運動を開始し50円、100円の募金をあつめ、個人の家を間借りして開設、診療を始めました。(1968年2月より信和会に加入)

大宅診療所は、山科での長年の夢であった民主診療所として、100人の発起人、300人の賛同で友の会を作り、1984年7月開設しました。

京都民医連洛北診療所は、1994年から「洛北に民医連の診療所をつくる会」を会員116人で立ち上げ、1996年10月開設しました。

今は、法人合同後、田中デイサービスセンターとなりましたが、田中診療所も信和会とともに歩んできました。1953年田中地域で京大セツルメントの学生たちが医療相談所をつくり、1954年11月に診療所となりました。

## 第二センター病院としてスタート、 困難を乗り越え、「転換」をはかる

かねてからの念願であった老朽化した北館の改築を1997年に実現。事業には多くの方からの期待が建設協力金という形で寄せられました。同時に病院名も京都民医連第二中央病院と変更し、新たに高齢者医療や消化器、呼吸器の取り組みを進めました。また、1999年には京都民医連あすかい診療所の開設、病院は療養病棟を開設しました。2000年代に入り、病院は回復期リハビリ病棟を開設し、現在の急性期と療養、回復期の構成となり、2004年にはあすかい診療所併設歯科を開設、2005年には日本医療機能評価機構による認定を受けました。大きく様変わりする情勢の下、地域の中での役割を明確にして、連携を深め、質の向上に努めてきました。



旧北館



1997年改築された北館



信和会のあゆみ

その他の取り組み

1937

社団法人信和会設立 第一次病院建設のための募金始める 7月 安井病院開設、ベッド数40床(開設時の診療科 内科、外科、小児科、産婦人科、放射線科) 全日本民主医療機関連合会に加盟		1955
ベッド数70床に増床	安井病院労働組合設立	1957
無料低額診療事業開始		1958
吉田健康会設立(友の会の前身)	いっせい地方選挙、安井信雄元院長市議当選(4選) 伊勢湾台風による水害の救護班を送る	1959
第1次第3期工事完了(3、4階増築、総ベッド数108床) 救急指定病院となる	病理検査始まる 胃カメラによる診断法開始	1960
ベッド数11床増、合計119床		1963
院内保育所設置	社会保障改悪反対左京連絡会結成	1965
病院建設に伴う新しい発展計画決定 地域募金活動開始 川端診療所、東山診療所の信和会加入	いっせい地方選挙、安井信雄元院長市議当選(6選) 第1回日常医療総括会議(腹膜灌流のまとめ)	1967
第2次第1期工事完成(南館1階2階新築、ベッド数204床)		1968
	いっせい地方選挙、安井信雄元院長市議当選(7選)	1970
第2次病院建設第2期工事起工 信和会近畿高等看護学校設立(その後京都保健会へ) 創立20周年のつどい	最初の患者会となる高血圧患者会結成	1971
京都民医連の外科研修センター病院として発足	安井信雄元院長逝去、享年69歳 第1回全職種に参加する症例検討会開催 安井病院友の会発足	1976
第2次病院建設第2期工事完成 ベッド数242床 創立25周年記念のつどい(教文センター)		1977
大宅診療所開設(山科区) 創立30周年のつどい 市内2次救急病院群輪番体制病院となる	人工腎臓患者会「しんあい会」発足 京都府救急医療情報システムに参加	1978
第3次発展計画策定 経営状況の悪化 経営危機・京都民医連内支援 「北館改築」の提起と第3次発展計画の総括	第一回左京健康まつり開催(7000人参加) 知恩寺 京都民医連中央病院開設(中京区)	1980
北館改築建設協力金開始 訪問看護ステーション「たんぽぽ」開設 老人デイケア開設 京都市在宅介護支援センター併設		1981
京都民医連第二センター病院建設着工 「ありがとう北館・つくろう第二センター病院」集会 新北館オープン 岩倉に洛北診療所開設 訪問看護ステーション「どんぐり」開設(東山区)		1984
京都民医連第二中央病院オープン(病院名改称) 総合リハビリテーション施設認可 療養病棟(ベッド数50床)の開設 2000年問題対応のコンピュータの全面入れ替え 京都民医連あすか診療所開設 ヘルパーステーション「こでまり」開設	院外処方箋発行 ヘリカルCT導入 阪神・淡路大震災救援支援活動	1985
	MR稼働 カラードップラー EUS導入 新看護体系2:1看護に	1987
整形外科手術再開、手術室大改装 訪問看護ステーション「ひまわり」開設 ヘルパーステーション「くるみ」開設(東山区)		1988
回復期リハビリテーション病棟開設	診療情報開示開始 介護保険法施行	1989
高原デイサービス開設 泉涌寺湯デイサービスセンター開設(東山区) 地域医療連携室設置、診療情報管理課設置 開放型病床5床登録 日本医療機能評価機構病院機能評価受審 臨床研修指定病院協力型として研修医の受け入れ 病院機能評価認定 大宅診療所改築着工	外部団体による病院探検実施	1991
	医療福祉宣言確認 ボランティアセンターふきのとう開設	1992
	健康友の会会員数が1万人に	1993
	病院機能評価受審へ「改善」の大運動、病院の理念確定	1994
		1995
		1996
		1997
		1998
		1999
		2000
		2001
		2002
		2003
		2004

2005



# 2006年～ 2015年



歯科往診



リハビリ



訪問活動



## 機能強化・病棟再編

北館改築後の医療情勢の悪化と順調には進まない県連センター病院構想の中で、職員と共同組織の努力により2004年には念願の債務超過を克服しました。病院はセンター病院から242床の地域の基幹病院へ転換することを確認しました。高齢化が進む地域をベースにした保健・医療・介護の総合的な要求に応える左京区最大の民間病院として、総合力と大学病院や開業医との連携で存在意義を発揮できる病院へと舵をきりました。南館改築を見据えて、2011年11月に病院ベッドの一部を転換して介護老人保健施設「茶山のさと」を建設。2013年に法人としてISO9001の認証、2014年4月には公益社団法人としての認定を受けました。



2011年開設された「茶山のさと」



## 地域包括時代へ


公益社団法人の認定に当たっては、地域の中核病院として果たしている役割について、とりわけリハビリ医療、在宅医療、難病や高次脳機能障害への対応が高い評価を受けました。また、介護老人保健施設での摂食嚥下訓練や外部への積極的な活動についても公益認定の要素となりました。認定後も、左京区での訪問看護ステーションの大型化や山科区での総合ケアステーションの建設など、在宅支援の事業展開が更に進みます。3行政区にまたがる事業の広がり、地域に根を張る質量兼ね備えた共同組織の大きな力、積み上げた経営改善、総合性を持った医師・看護師・リハなどの医療・介護スタッフ、医療と介護の連携と協同による在宅事業の展開など、法人の優点をいかして地域ニードに応える事業を展開してきました。2025年の地域包括ケア時代に向けて、2015年度の法人目標は「一歩手前で予防する。一歩進んで手をつなぐ。一地域での健康づくりと社会での安心づくりのどちらも進める1年に」と決めました。第二中央病院南館改築工事は、この流れの中で2015年秋に着工します。住み慣れた街で安心して暮らす一地域の医療と介護の架け橋として、信和会の挑戦は続きます。



食前体操の様子





信和会のあゆみ	その他の取り組み	
マンモグラフィ導入(乳がん検診) 政府管掌健康保険生活習慣病予防健診受託 外来透析再開	全日本民医連「孤独死」調査	2006
法人信和会会計提起(南館改築に向けての検討開始)		2007
2月電子カルテ導入(外来)、8月より病棟稼働 全身麻酔手術中止 終末期医療のガイドライン確定	後期高齢者医療制度開始	2008
転換型老健施設建設に向けての本格検討開始 日本医療機能評価 Ver6 受審 「田中飛鳥井町のちのカルテ」上梓 環境保健協会との法人合同		2009
日本医療機能評価 Ver6 認定 転換型老健施設建設着工	門祐輔前院長府知事選出馬 民医連綱領改定	2010
田中診療所の医科事業の廃止と統合、 総合ケアステーションとして再出発(5/1) 介護老人保健施設茶山のさと開設(70床)と第二中央 172床化(11/3)	東日本大震災(3月11日) 延べ50人の災害支援チーム派遣	2011
ISO9001 取得に向けての取り組み開始	「お元気でしか訪問」開始 薬剤管理体制の改善強化	2012
理事長：小林充、院長：磯野理 就任 ISO9001 法人として認証(洛北診、左京南包括支援セ ンター除く)	第二中央病院南館プロジェクト立ち上げ	2013
公益社団法人に認定され4/1より移行開始 南館リニューアル計画着手 電子カルテリプレイス計画着手	診療報酬改定(病院病床機能再編から地域 包括ケアシステム構築へ)	2014

## 第二中央病院南館リニューアル事業 東山診療所新築移転

いよいよ2015年秋頃から老朽化した南館の全面リニューアル工事が始まります。現地での建替えて、診療を維持しながら3期・2年半にわたる工事となり2018年春の完成予定です。新しい南館は、「超高齢化多死社会」のなか新たな機能として、緩和ケア病棟を開設します。また、外来はあすかい診療所の内科慢性疾患外来と在宅往診機能を病院外来に統合し、主治医機能、かかりつけ医機能を強化して、急性期対応から慢性疾患管理、そして在宅まで、地域で安心して暮らせるためにサポートする病院・外来機能を打ち出していきます。あすかい診療所は、通所リハビリを配置し、リハビリに特化した診療所として生まれ変わります。

東山診療所も老朽化しています。土地が見つかり次第新築移転計画を実行し、新たな医療・介護のネットワークで地域の皆様の暮らしと健康を守ります。

「安井病院」時代からの60年の歴史と伝統を引き継ぎ、新たな時代にチャレンジしていきます。



第二中央病院南館リニューアル後イメージ



建設運動  
キャラクター  
しょうちゃん



# 医療・介護の活動

## 地域の最後の砦として、 困難に向き合う

高齢化が進む地域の中で、いのちの格差が確実に広がっています。そしてその背後には経済的な困窮が垣間見えます。「貧困を作り出さない社会保障」を求めるとともに、目の前の患者さんにとことん向きあう。そんな安井病院時代から積み重ねてきた精神が、今もここに息づいています。



往診



お元気ですか訪問



通所リハビリテーションの花



病院機能評価認定証



## この手を離さない

—— 最も困難なひとびととつながる

### 無料低額診療

信和会は1958年から第二種社会福祉事業の指定を受け無料低額診療事業を行っています。経済的な理由で必要な医療を受ける機会を制限されることのないよう無料または低額で医療にかかる制度です。

「医療費がいくらかかるか心配で病院にかかれない」「急な病気で入院したが収入も減り入院費の支払いが心配」このような方はぜひご相談ください。

憲法25条には「すべて国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」と定められており、無料低額診療事業はその権利の保障をするため社会福祉法に位置づけられています。必要な医療を、必要な人に、いのちの平等をかかえて医療制度改悪に反対する取り組みもすすめています。



## いのちの切り捨て許さない

— 社会保障を守る運動

突然ライフラインが止まった利用者がいました。彼女はデイサービスの利用料も滞納し、息子は昨日から何も食べていませんでした。困窮のきっかけは、息子の就労中の事故。誰にも頼らず収入が途絶えた結果でした。底冷えする1月、今日をどうするのか。ケアマネと事務職員が動きました。区役所保護課へ同行。電気、水道を通す交渉も職員が行いました。

信和会が取り組むホームレス支援で、医師から指摘され透析治療を開始しましたが、定住ができず、治療に来ない透析患者となりました。年末のことでしたが、とうとう連絡もとれず、診療所に来ませんでした。年が明け、ホームレス仲間のところを転々として、入院となり、そこから診療所に連絡が入りました。定住を考えるとほしいと働きかけ、第二中央の連携室のSWとともに保護の申請を行いました。しかし、借家住まいの単身高齢者（保証人が立てられない）の方を取り巻く住居環境は極めて厳しい状態にあります。この方を含め高齢者の医療・介護を受ける権利は著しく侵害されています。今回は不動産業者の良心的な援助もあり住居を確保できました。

これらの事例にみられるように「安心して住み続けられる街づくり」無差別平等の地域包括ケアの実現は、住まいの問題の解決抜きでは語れません。本来なら行政が住居を斡旋するなど、積極的な援助を行うべきであると思います。





## 地域の中で

### 地域の医療機関との連携

#### 認知症

臨床から垣間見える高齢化は、ただ数が増えたという単純なことではなく、単身高齢世帯の割合の増加といった高齢者の生活状況の変化、認知症の合併によるさまざまな課題、住居や介護といった生活福祉との関連の大きさなどを伴っています。これまで以上に医療機関内にとどまって疾患だけを見ていればよい医療から私たちを引き離しています。日々あらたに生ずる課題に遭遇し、職員は頭を悩ませつつも何とかしようとしています。しかしそれは悪いことではありません。高齢者医療・認知症への取り組みは、私たちの力や知恵を鍛え、より地域に開かれた医療機関となるよい機会と考えています。これからも皆様のお力添えをよりしく願います。



もの忘れ外来

左京区には熱心な開業医の先生方がたくさんおられます。しかし24時間どんな要求にもこたえられるわけではありません。高度な医療を行う急性期病院、慢性期の病院、回復期リハビリテーションの病院、精神科の病院、整形外科の病院、診療所など、機能の違う医療機関どうしが連携し、地域全体で、安全で安心できる医療を提供することが求められています。

この左京区の中で本院は、総合的な要求にこたえられるように救急の対応を行い、特に高齢者にやさしく認知症に強い、リハビリテーションを重視した病院として、地域への貢献を行っています。



地域医療連携室

#### 連携医療機関からの メッセージ



京都市高野地域  
包括支援センター

センター長  
京極 まき子

創立60周年を迎えられ、おめでとうございます。長年にわたり、地域医療を担ってこられ、今後推進される「地域包括ケアシステム」においては、益々医療・介護・福祉の連携が求められており、貴病院の役割はさらに重要になると期待しています。高齢福祉・医療における日々の連携や、地域ケア会議を積み重ねることにより「地域づくり」を共に進めていけますよう、ご支援、ご協力をお願い申し上げます。



市田医院

院長  
市田 哲郎

昨今の社会保障削減のせいなのか、地域には医療の手の届いていない方、ケアが足りていない患者さんが増加しています。そういった方(認知症合併、セルフケア不足など)で入院が必要となる場合に京都市民医連第二中央病院の先生方をはじめスタッフの皆さんには大変お世話になっています。一度入院して医療的な方向付けをしていただき、その間に我々は在宅生活維持に向けた準備を行う。これからもこのように地域医療の基本的な部分で連携して行ければ良いと考えています。どうぞよろしくお願い申し上げます。



# まちづくり

## 共同組織とともに、 もっと住みよいまちづくり

共同組織は職員とともに歩むパートナー。「安心して住み続けられるまちづくり」をめざし、健康づくりをはじめ、助け合い活動や社会保障、平和を守る取り組みを一緒に進めています。



東山：NPO法人助けあいグループプリぼんの活動



山科友の会の活動

### 友の会

## 左京

## からだの健康、こころの健康、 社会の健康=平和

「からだの健康、こころの健康、社会の健康=平和」をスローガンに、健康づくりの取り組み、会員相互の親睦を深める旅行やお食事会、通院の送迎などのボランティア活動に取り組んでいます。誰もが安心して暮らせるまちづくりのために、より幅広い方々と力をあわせて今後も活動していきます。



↑北白川支部のお食事会の様子。お食事会は2ヶ月に1度の頻度で行われ、16年間続いています。2014年の府知事選挙前に開催したお食事会では、各自要望を紙に書いてタペストリーを作成しました。

←川端診療所で開かれた南生健会支部主催のうたごえ喫茶

### 友の会

## 東山

## 1,300人の会員と 楽しく活発な活動

### 【東山健康友の会】

1988年に創立。発足時会員数は390人でしたが現在は1,300人に。活動は、年間5回「友の会だより」を発行し、健康相談会・地域懇談会、サークル、日帰り旅行、落語会など、楽しい活動を活発に行っています。



### 【NPO法人助けあいグループプリぼん】

りぼんは、友の会と診療所職員で2005年に活動を開始。2007年9月にはNPO法人の認証を受けました。東山区在住で元気な者が自分の得手を生かし困っている人へお手伝いをする、生活支援活動を行っています。





友の会

## 山科

### 1,800人の会員とともに 地域に根ざした活動

発足から30年。現在は約1,800人の会員がいます。活動としては、各サークル活動や送迎ボランティア、友の会健診活動に取り組んでいます。他にも健康まつりや一人暮らしの安否確認など、地域に根ざした活動を行っています。



「ストレッチ体操」で日頃の運動不足を解消



(左)おしゃべりの花が咲く  
ブーケの会  
(中)賑わう山科健康まつり  
(右)子どもからお年寄りま  
で楽しんだあゆつかみ

友の会

## 洛北

### 子どもから高齢者まで 安心安全の地域めざして

洛北診療所では夏に地域の皆さんに呼びかけて納涼祭を行っています。子どもからお年寄りまで参加してもらえるよう職員・友の会で企画しており、竹を使った流しそうめんが好評です。また診療所の外に出かけ、歩こう会や岩倉や市原での健康相談会を行っています。地域に足を運ぶのがモットーの診療所です。



納涼祭の様子

### 入ってよかった 健康友の会



京都左京健康友の会  
幹事 駒井 順治

公益社団法人信和会創立60周年記念を迎えるにあたって思い出すのは、共産党の市議会議員であり安井病院の医師であった安井信雄先生のことです。

私が小学生、中学生の頃、市議会議員活動として地元でいろいろな集会に参加・演説され訴えられていた事が思い出されます。独特の声、くせのある演説の仕方。人気のある先生でした。今でも、第二中央病院の事を安井病院と言う人がいます。

京都で初の共産党の市議会議員を誕生させたのは、ご本人と安井病院の民医連活動と田中診療所の役割、また地元のいろんな闘いとが結びつき強固な地盤が創られたからです。今、大きく発展した京都民医連第二中央病院。民医連活動の拠点として成長されていることを嬉しく思います。

幸いに縁があって2年前に健康友の会の役員を

させていただきました。支部結成や医療懇談会などに参加させていただき感じたことは、医師の科学的な説明、講演や指導など時間をかけて行ってくれること。また、一人ひとりのいろんな角度での体力調査や医療技術者のサポート体制など、第二中央病院の組織をあげての支援体制は嬉しいですね。医師と個人との関係だけで健康管理するよりも支援体制の集団と友の会の会員の仲間と共に健康管理するほうが元気に励まされます。健康と生活の安定は、戦争のない平和な社会であることなど社会背景を抜きには語れません。民医連の活動は人間の生きる基本を押さえた総合的な活動をやられている。そこがすごい。まだまだ地域の中に根を広げて行く活動が要求されています。入ってよかった健康友の会と言われる活動を進めていきたいと思っています。



# 平和を守る

良い医療・介護にとって平和は不可欠。平和を守ることは「いのちを守る」こと。戦後70年という節目を迎えた今、各職場で「いのちを守る」ことにこだわる職員が、「平和」について考えました。

## 【座談会】

### いのちと人権を守るため、平和を守る



上西 斎藤さんは、平和塾で韓国のグリーン病院やナムムの家を訪問されましたよね。

斎藤 私は日本が韓国に対して加害をした歴史があることを平和塾で学ぶまで知りませんでした。でもその事実を知った途端に、韓国の方が日本人を恨んでいるのじゃないかって、行く前は恐ろしい思いをしていました。けれど行ったら、皆さんが歓迎ムードで「昔はそういうことがあったかもしれないけど、今の人たちはそういうことを知っているけども、悪くは思っていないし、国同士ではなくて、人と人で見ているから大丈夫ですよ」という言葉を掛けてもらってすごく安心したのが印象的でした。

上西 渡辺さんも韓国フィールドワークに行かれています、普段の仕事と平和を学ぶこと、何かつながりがあるのでしょうか？

渡辺 医療や福祉の現場で働いていると何か痛みを持って来られる人たちと関わる事が多くて、私はソーシャルワーカーとして働いているので、その痛みがどんな側面からあるのかって、すごくいろんな視点で見ているというのが職種上あると思っています。一人ずつの痛みを知って、それに対して何ができるのかと考えた時に、想像力を使う仕事なんです。その想像力は何か考えた時に、「この人にとっての痛みって何だろう」と思える感性がすごく大事だと思う

ています。韓国に行ったときにハルモニたちがつたない日本語で「よく来てくれたね」って言葉をかけてくれて嬉しい反面、それって日本が侵略しているときに強制した言葉ですよ。だからそこにすごくまた「痛み」を感じて…。でもハルモニたちは手を握って「私たちの姿を日本に伝えてほしい」ということをすごく言ってきてくれました。そのときに、当時を知らなくても、今を生きる私たちが自分たちの言葉で伝えていくことがすごく大事だなと思ったのです。平和塾に行って、まず知ることから始めることがすごく大事。知らない想像もできないし、やっぱり痛みを感じることもできないなというふうに思いました。

富山 だいたいみんな平和塾には「行けと言われたので来ました」みたいな感じでスタートする人が多いと思います。その中で、学習やフィールドワークを通じて、「そうやったんか、こんなに身近に戦争が残っていたのか」というところから衝撃を受けて、卒業をする時には「戦争だけが平和問題じゃないんや」「暴力も平和ではない」「いろんな問題がある」ということに気が付いて。そして知るだけではなくて、やっぱり「誰かに言わな」「こんな大事なことを伝えな…」というふうになっていくと思うのですよね。

上西 武谷さんは夏休みを利用して沖縄、高江のヘリパッド建設反対の座り込みに行かれましたよね。



韓国「ナムムの家」でハルモニたちの話を聞く

ハルモニの話を真剣に聞く平和塾の塾生たち



韓国フィールドワーク

沖縄高江のヘリパッド建設反対座り込み







〔第二中央病院〕  
富山 希生さん  
(事務)

〔第二中央病院〕  
渡辺 郁さん  
(ソーシャルワーカー)

〔茶山のさと〕  
斎藤 美奈子さん  
(介護福祉士)

〔洛北診療所〕  
藤井 聡子さん  
(事務)

〔東山診療所〕  
武谷 夏美さん  
(事務)

〔第二中央病院〕  
府金 結太さん  
(看護師)

【コーディネーター】あすかい診療所 上西 良太 事務長

武谷 沖縄へは個人で行きましたけど、私としては民医連の運動を通じて高江のことを知ったので、京都民医連から来たということをもまず伝えて。人間と人間の闘いで、県民同士のぶつかり合いもあったり、本当にやめてほしいなというふうな思いで参加したんですけどね。高江のバス停を降りた時になんか涙が出た感じがしました。すごい大自然の中に長いフェンスの基地があって、米兵が出てきてもおかしくない場所のすぐ近くには民家がもうあるのですね。日常生活の中に本当に基地と隣り合わせというのを目の当たりにしました。

上西 藤井さんも辺野古支援に行かれたんですよね。

藤井 民医連に入った時には、民医連綱領に「戦争政策に反対する」と書いてあって、でも、自分自身が命を脅かされた経験はないので、平和活動ってことにピンとこなかったところがありました。辺野古に出会って辺野古で体を張って海を守るという闘いを見た時に、平和というのは体を張って守らなくてはいけないというか、ほうっておいたら脅かされるものだということを見たのがやっぱり大きかったかなと思いますね。

武谷 やっぱり運動を独りよがりにはいけないで、「自分はこちらに行ったよ。座り込みをしてきたよ」とか、「反対運動をしてきた」で終わらせてはやっぱりいけないと思う。運動

は作ったり継承しないと意味がないものであって、歴史を学んで次につなげる私たちにできることをやっぱり考えないといけないと思います。

府金 今、まさに戦争に向かってるんじゃないですか。一方で、介護報酬を下げるとか、それこそ舞鶴に行った時にイージス艦が1隻何百億とか、そういう話はやっぱりつながっているんですね。でも、同期や、友だちに、歴史や戦争の話題をすることはほとんどなくて、でも、自分の中ではとても大事なことなんです。平和塾に参加して、そのことを病院を超えて話し合えたのがすごく自分の中では良かったなって思っています。今でも飲みに行ったりしたときに、楽しい普通の飲み友達でもありつつ、「最近、安倍さんはどうなん?」とか、そういう話もできるし、新しい環境を作るきっかけにもなったかなと思っています。

上西 民医連が「平和を学ぶ」ことの受け止め方もそれぞれあるなというのも分かりましたし、学ぶことを通じて得られるつながりも大事なんだなあというのを改めて感じた次第です。今日はありがとうございました。

参加者全員:ありがとうございました。



辺野古基地建設反対

舞鶴・米海軍のイージス艦



いのちかがやけ 日比谷集会

京丹後米軍基地建設反対





# 未来へむけて



## 京都市民連第二中央病院

1955年安井病院が40床で開設され、1997年第二中央病院がオープンし現在に至っています。ポジショニングは在宅支援、リハ、精神科、透析など障害者への支援、社会的に困難をかかえた患者への支援を行う病院です。また共同組織は1万人に到達する会員数です。今年から約3年間をかけて南館リニューアルを行い、地域のニーズに合った医療・介護構想の展開をさらに前に進めていきます。



## 京都市民連洛北診療所

1996年10月にオープンした洛北診療所は、岩倉の街で産声をあげもわずか20年をむかえます。0歳の赤ちゃんから100歳をこえる方まで、幅広くおこしいたいております。友の会会員は1000名を超え、地域になくてならない診療所を目指してきました。規模は小さいですが、アットホームな雰囲気が人気です。地域に開かれた診療所としてこれからもがんばります。



## 京都市民連あすかい診療所 あすかい診療所歯科

1999年に、内科慢性疾患の専門外来としてスタートしました。2004年からは、訪問診療を開始し、在宅医療にも力を入れた診療所として成長しています。同時期に開設した歯科では、バリアフリーにし、車いすの方にも好評です。また、歯科往診も行っています。今後も第二中央病院とも連携をとりながら、より良い医療の提供と地域の方々の健康づくりや在宅生活をサポートしていきます。



## 川端診療所

地域の皆さんの協力をえて、設立当時は個人宅を借り50円、100円と協力金を集め、機器をそろえて生まれた川端診療所は61年がたちました。信和会事業として、第二中央病院と連携し透析事業開始から26年。その後訪問診療や介護事業展開など、いのち・社会保障を守る活動を行ってきました。「安心して住み続けられる街づくり」をめざし、左京南生健会とともに活動していきます。



## 川端鍼灸治療院

当院は、皆様の支えにより40周年を迎える事ができました。これまで民医連の一員として「いつでも誰もが安心してかけられる医療」をめざし外来・往療診療を行ってきました。今後も友の会と協力して患者要求に基づいた活動を行います。また診療所併設である事を活かし、医療・介護との連携をすすめ、東洋医学ならではのアプローチで皆さまの健康維持・増進に役立ちたいと考えています。



## 東山診療所

1952年東山診療所が創設されて63年になります。清水焼の職人さんの方々が中心になって「自分たちの手で医療機関を」と運動が始まり、一口50円の開設募金を地域に呼びかけ2か月ほどで6万円ほどが集まり、開設されました。東山区は現在、高齢化率32%となっており、高齢者医療、在宅訪問診療に力をそそぎ、医療・介護のネットワークで地域の人々の暮らしや健康を守る役割を担っています。



## 大宅診療所

当診療所は、山科健康友の会やQOL山科など医療、介護をよくしたいと願う団体や多くの人たちと、協力共同で大きくなってきた所に特長があり、診療所の強みともなっています。地域からは厳しい労働実態や生活実態から、色んな相談が診療所に飛び込んできます。小児から高齢者まで全ての世代のかかりつけ医として気軽に相談できる診療所をめざしています。



## 介護老人保健施設 茶山のさと

2011年11月に開設した京都市民連第二中央病院のベッドを転換した老健(介護療養型老健・70床)で、入所・短期入所・通所リハビリサービスを提供しています。医療ニーズの高い利用者さんを受け入れ、食べることが困難な高齢者の方への食支援に力を入れています。利用者さんのみならず、地域で暮らす高齢者を支援する拠点となるよう、地域の方々と一緒に取り組んでいます。



# 2015~



### 田中デイサービスセンター

14名定員の小規模デイサービスです。アットホームな雰囲気でお風呂も家庭と同じ様な空間で職員と一対一で入って頂いています。利用者さんより一言：「皆親切！」利用者さんも職員も歌が大好きです♪



### 訪問看護ステーション たんぼぼ

現在200名の利用者さんに月に1000回の訪問看護を実践。5歳から100歳まで幅広い利用者様に「その人らしい在宅療養生活の実現」を目的に必要な援助を行っています。看護師は現在17名。皆協力し合って頑張っています。



### ヘルパーステーション こでまり

こでまりは利用者さんの思いを尊重し安全安心に在宅生活が出来よう支援しています。専門職を生かし精神面、体調面でもサポートしています。これからも笑顔で訪問介護活動を続けていきます。



### ケアプランセンター飛鳥井

私たちケアマネジャーは、介護に関わる相談や介護保険を利用するためのお手伝いをします。住み慣れたご自宅で暮らしていただけるよう、一緒に考えていきますので、お気軽にご相談ください。



### 高原デイサービスセンター

病院の近隣に開設して早12年。年をとっても病気になっても、住み慣れた地域で安心して生活を継続することができる様に支援させていただける事をモットーに、どんなケースでも断らない姿勢を貫いています。



### 京都市左京南地域 包括支援センター

高齢になっても住み慣れた地域で、その人らしく最後まで生活できる地域づくりを、地域の介護事業所・居宅のみなさんはもとより、友の会、地域福祉役員、行政とも連携を強め、地域包括ケア推進の要となれるよう頑張ります。



### 訪問看護ステーション どんぐり

『観光客・坂道・高齢者・独居』これが東山区のキーワードです。利用者さんに質の高いサービスの提供をめざし、日々研修にはげみ、明るく楽しい職場作りで奮闘するどんぐりへおこしやす。



### ヘルパーステーション くるみ

ヘルパーステーションくるみは、京都市では高齢者が一番多い東山区今熊野にあります。事業所の向いにある樹齢900年と推定されている樟に見守られ、利用者さん宅へ、笑顔いっぱい明るく元気に訪問させて頂いています。



### 泉涌寺湯 デイサービスセンター

利用者さんたちが住み慣れた地域の中で「笑顔」で、元気に楽しく生活出来るように職員も「笑顔」で、支えて行けるようなデイサービスを目指しています。



### 総合ケアステーション山科南

(ケアプランセンター虹・ヘルパーステーションとまと・訪問看護ステーションひまわり)

総合ケアステーション山科南は、2014年10月に大宅診療所から独立した、信和会のなかで一番新しい事業所です。山科・醍醐地域は、市内でも高齢化が進んでいる地域です。また、障害を持つ方を対象にしたバリアフリーの市営住宅も多く点在しています。このような地域の中で事業連携を強化し、各自が専門力量を発揮させ、病気や障害を持ちながらも笑顔で在宅での生活を送っていけるよう、地域に住むひとびとを支援していきます。







- ① 京都民医連第二中央病院
- ② 京都民医連洛北診療所
- ③ 京都民医連あすかい診療所  
京都民医連あすかい診療所歯科
- ④ 川端診療所
- ⑤ 川端鍼灸治療院
- ⑥ 東山診療所
- ⑦ 大宅診療所
- ⑧ 介護老人保健施設茶山のさと
- ⑨ 田中デイサービスセンター
- ⑨ 訪問看護ステーションたんぼぼ
- ⑨ ヘルパーステーションこでまり
- ⑨ ケアプランセンター飛鳥井
- ⑩ 高原デイサービスセンター
- ⑪ 京都市左京南地域包括支援センター
- ⑫ 訪問看護ステーションどんぐり
- ⑫ ヘルパーステーションくるみ
- ⑬ 泉涌寺湯 デイサービスセンター
- ⑭ 総合ケアステーション山科南  
(ケアプランセンター虹  
ヘルパーステーションとまと  
訪問看護ステーションひまわり)

## 民医連綱領

私たち民医連は、無差別・平等の医療と福祉の実現をめざす組織です。

戦後の荒廃のなか、無産者診療所の歴史を受けつぎ、医療従事者と労働者・農民・地域の人びとが、各地で「民主診療所」をつくりました。そして1953年、「働くひとびとの医療機関」として全日本民主医療機関連合会を結成しました。

私たちは、いのちの平等を掲げ、地域住民の切実な要求に応える医療を実践し、介護と福祉の事業へ活動を広げてきました。患者の立場に立った親切でよい医療をすすめる、生活と労働から疾病をとらえ、いのちや健康にかかわるその時代の社会問題にとりくんできました。また、共同組織と共に生活向上と社会保障の拡充、平和と民主主義の実現のために運動してきました。

私たちは、営利を目的とせず、事業所の集団所有を

確立し、民主的運営をめざして活動しています。

日本国憲法は、民主主義と平和的生存権を謳い、基本的人権を人類の多年にわたる自由獲得の成果であり永久に侵すことのできない普遍的権利と定めています。

私たちは、この憲法の理念を高く掲げ、これまでの歩みをさらに発展させ、すべての人が等しく尊重される社会をめざします。

一、人権を尊重し、共同のいのちと健康を守ります  
一、地域・職域の人びとと共に、医療機関、福祉施設

などとの連携を強め、安心して住み続けられるまちづくりをすすめます

一、学問の自由を尊重し、学術・文化の発展に努め、

地域と共に歩む人間性豊かな専門職を育成します

一、科学的で民主的な管理と運営を貫き、事業所を守り、医療、介護・福祉従事者の生活の向上と権利の確立をめざします

一、国と企業の責任を明確にし、権利としての社会保障の実現のためにたたかいます

一、人類の生命と健康を破壊する一切の戦争政策に反対し、核兵器をなくし、平和と環境を守ります

私たちは、この目標を実現するために、多くの個人・団体と手を結び、国際交流をはかり、共同組織と力をあわせて活動します。

2010年2月27日 全日本民主医療機関連合会

